

平和行事参加の旅

60代 男性

小金井市の行事、初参加で、広島平和記念式典に参加させていただきました。

集合場所の武蔵小金井駅から、東京駅・広島駅・初めて乗った路面電車（市電）宿泊するホテルまで順調に到着。荷物をホテルに預け、市の事務局の方の案内・説明を受けながら、途中大きく長いアーケード付きの商店街を二カ所通り、爆心地の【島医院】前を通り原爆ドームへ、今まで原爆ドームが爆心地とっていましたが、投下の目標地が、相生橋であり、目標がずれ、【島医院】の上空で爆破されたことを知ることができました。

大変暑い日ではありましたが、平和記念公園には多くの外国人がきていました。外国の若い人たちに、平和記念資料館や、公園内・その周囲にある慰霊碑等を見学して、原爆被害の悲惨さを感じ、核兵器の廃絶と、核のない世界の訴えを広めていただきたいと思う次第です。

平和公園での自由時間が長く、とても暑かったので、集合場所の建物の中で待つことにしました。ホテルへの帰り道で、被爆した【アオギリ】と言う樹木があり、【アオギリの歌】と言うのを聞くことができました。

翌、式典当日、会場に到着しましたが、席に着く前に式典が始まってしまい残念でした。

朝早くで大変かもしれませんが、もう少し早くホテルを出発しても良いのではないかと思いました。

式典には、各地から多くの小・中・高生が来ているのが気になりました。私たちの前列に茨城県東海村からの小・中学生がおり、特に原子力に関心を持たなければならない地域だからなのでしょう。

前日に続き暑い日で、冷たいタオルを配り、回収し、また、冷たい水のサービス等をしていた高校生の皆さんに心より感謝の気持ちを申し上げたい。

式典の後献花をして、解散。

私は帰りの時間まで、平和記念公園とその周辺を見学しました。公園内の広島国際会議場の裏には、ホノルルから送られたヤシの樹を見ることができました。又、[原爆犠牲国民学校教師と子供の碑]は、先生が生徒を抱きかかえ走っている像ですが、共に身体が焼きただれている像で悲惨なものでした。多くの千羽鶴が掲げられていました。この周囲には、これ等の他に80を超える慰霊碑等があるとのことでした。

今回参加させていただき、原爆ドームを実際に見ることができたこと、それ以外に、目で見ることにより、多くの正しい事を知ることができ、大げさでは有りませんが、被爆国の一人として知識を身につけることができたと思います。

同行していただきました事務局の方にお礼と感謝を申し上げます。

有難うございました。

市報で平和行事参加の旅を知るまで、私は直接原爆の被害を受けた広島や長崎を訪れたことがありませんでした。そのため、日本が経験した戦争については、学校教育と祖父母から聞いた話でしか知識を得る機会がありませんでした。今回は小金井市民の方々と実際に平和行事に参加し、戦争と平和についての理解を深めようという思いでこの旅に参加しました。

旅は8月5日と8月6日の1泊2日で、1日目は平和記念公園の様々な場所を見学するという行程でした。一番印象に残ったのは、広島平和記念資料館です。これまで被爆後に撮られた写真は何度か見たことがありましたが、資料館には写真以外にも戦争の悲惨さを訴えかけるものがたくさん展示されており、被害の大きさを改めて知ることができました。中でも強く心を打たれたのは、黒こげになった被爆者の遺品や被爆者が被爆直後の光景を描いた数々の絵です。写真に収められている光景は被爆後のものや爆心地周辺で撮られたものがほとんどです。一方で、黒こげの遺品や被爆者が描いた絵は、原爆の被害を最も強く受けた地域の、被爆の瞬間や被爆の直後を捉えたものなのです。原爆が投下された8時15分で止まった時計や、水を求めて飛び込んだ人々であふれる川の絵などは、一瞬ですべてが焼きつくされ、生き地獄と化した街の様子が強く伝わってくる資料であり、戦争の悲惨さを改めて痛感させられました。

2日目は、平和記念式典に参加し、最後に原爆死没者慰霊碑に献花をしました。広島市長の平和宣言からは、核兵器は絶対悪であり、世界から核による威嚇を取り除いていかなければならないという強い思いが感じられました。唯一の被爆国である日本とそれ以外の国との間に、核兵器の捉え方や平和への思いに差がある

ことは想像していました。今回の平和記念式典に参加し、日本国内においても、被爆者をはじめとする戦争経験者や、被爆地で生まれ育った人々とそれ以外の人々との間に、戦争や平和に対する思いに差があるのだらうと感じました。私は、慰霊碑の正面に刻まれている『安らかに眠って下さい過ちは繰返ませぬから』という言葉をかみしめ、少しでも戦争経験者や被爆地の人々の気持ちが理解できるようになりたいと思いました。

戦後70年という節目の年である今年、被爆者の平均年齢は80歳を超えました。国の安全保障に関する議論が高まっている状況でもある現在の日本においては、戦争で日本が甚大な被害を受けたという事実を風化させないことが大切だと思います。そのためには、国民一人一人が戦争の悲惨さと平和の尊さを理解する努力をしていかなければなりません。今回の平和行事参加の旅で得た知識や抱いた感情は、自分にとってとても貴重なものだと思います。今後は自分も日本国民の一人として、戦後先人たちが築き上げてきた平和な社会を大切にしていきたいと思っています。

中学3年生 男子

僕は武器が好きだ。15歳の誕生日に買ってもらったエアガンは、僕の宝物だ。人を殺したいとは思わないし、戦場で戦いたいと思ったこともない。僕は本物の死体に触れたことはないが、死体の写真ならたくさん見知っている。

そんな僕のことが、母は少し心配になったのかも知れない。小金井市で広島の平和記念式典に出席する人を募集していると、教えてくれた。

1人でも参加する気になったのは、やはり広島に魅かれたからだ。『はだしのゲン』は小さいころからくり返し読んでいる。それに、1学期の英語の授業で“The story of Sadako”を習ったばかりだ。そして、今年は被爆70周年だという。

広島駅はとても大きくて、広島市は大都会だった。原爆を落とされた直後の広島市の様子を資料館で見たけれど、建っているものは何もなくて、まったくいらない感じだった。広島城もペしゃんこにつぶれたのだそうだ。本物の原爆ドームも見た。思っていたよりも小さかった。骨組みだけになり、何度も補修工事をうけて、70年間建ち続けている。すぐそばを流れる元安川は、原爆投下後何年たっても被爆者達の骨で川底が白くなっていたと、本で読んだ。

平和式典は暑かった。70年前も、暑かったんだろうと思った。

世界中からたくさんの人が式典に参加するために来ていた。それは、それだけ広島が世界の人たちにとって大切なところだからだと思う。

75年間は草木も生えないだろうといわれていた広島。だけど70年たった今日、広島に戦争の跡はほとんど見られない。決して忘れてはならないのに、次々と記憶は消えていく。被爆者の平均年齢も80を超え、本当に戦争を知っている人はごくわずかだ。

そう言う僕も、広島から帰ってきて特に何か変わったかと訊かれたら、いや別に、と答えるしかない。でも、原爆ドームのあの姿は、忘れられない。

平和行事参加の旅に参加して

60代 女性

戦後70年の今年の夏、私は小金井市の平和行事参加の旅に参加することができました。私は、戦後間もなく生まれ、幼いころはまだ片田舎でも、戦時中の話が日々の生活の中で聞くことができました。電燈は黒い布で覆ったこと、日本が台湾フィリピンまで赤く塗られた地図のこと、B29のことなど……。小学生向けの本も同様で、私は佐々木貞子さんのことや広島原爆のことをその頃に知ったように思います。医専を繰り上げ卒業して出征し、台湾で終戦を迎えた父から、その頃の話聞くこともありました。

これまで広島は仕事関連も含めて5回ほど訪れています。

そして、いつか平和記念式典に出たいという思いを持ちつつ、参加できるのは遺族の方や関係者なのだろうと半ばあきらめの気持ちでいたところ、偶然市報でこのツアーのことを知りました。

今年から記念式典は高齢になった被爆者・遺族に配慮し、大型の白いテントで覆われ、これまで最多の100か国以上の代表の参加の中で執り行われました。

戦没者名簿の奉納、式辞、献花（来賓、被爆者代表）、黙とう・平和の鐘、平和宣言、放鳩、平和への誓い、あいさつ（内閣総理大臣、広島県知事、国連事務総長）、ひろしま平和の歌合唱が式の流れでした。式典に参加しながら、自分が今座っている場所には、70年前には人々の日常の暮らしがあったことなどが心に浮かんで来て、被爆された方の思いや願いを受け止め、「もう2度と同じ過ちを繰り返してはいけない」という気持ちを新たにしました。

今回の旅には娘・小6年の孫の親子3代で参加し、そして孫の友人とお母様も

ご一緒でき、有意義かつ楽しいものになりました。大切なことを次世代に少しは伝えられたような気持ちです。

そして、小金井市の担当の方には本当にお世話になりました。100万人の中で迷子にもならず、安心して元気で参加できました。

今回参加して、まだ参加していない方には声をかけたいと思いました。

「平和行事参加の旅」に参加して

30代 女性

戦後70年という節目の今年、この旅に参加することができました。

正直、今までの私は「戦争」というものから逃げてきたように思います。

「怖い」「悲惨」「辛い」「苦しい」など、正面から向き合うには勇気の要る言葉が頭に重く存在していたので…。

今回参加したきっかけは、市報でこの旅を知り、家族に後押しされたことと、一度は式典に参加したいという気持ちからでした。

結論からいえば、今年この旅に参加できたことは、とても貴重な体験であり、平和への願いを再確認しました。

今まで、テレビで見ていた式典に実際に参加し黙とうと献花をしました。

あの日のあの時間、自分が居るこの場所で何が起こったのかを思い、想像し、黙とうすると、色々な気持ちが込み上げてきて涙が出てきました。

自分が「母親」という立場になり12歳の息子がいる今、もしあの時代だったら息子はもうすぐ戦争に参加していたのかもしれない…と思うと、怒りや悔しさも湧いてきます。

この旅に参加し体験したことで、戦争について改めて考えることができました。そしてきちんと過去に起きたことと向き合わなければと思いました。一緒に参加した息子も何か少しでも心に残っていればと思います。

終わりに、今回の旅を担当してくださった職員の方々には大変お世話になりました。

参加者の皆さんとも、素晴らしい時間を共有できました。

ありがとうございました。

このような旅の企画があることは大切だと感じたので周りにも知らせたいと思います。

「平和行事参加の旅」にて

小学6年生 男児

ぼくは、はじめて広島に行きました。

だからはじめての物ばかりでした。

式典も、原爆くドームも、資料館も初めてでした。ただ、資料館がこんで、3分の1しかあいてなかったのがびっくりした。

でも戦争はいけないと思った。今回は参加していろいろ知った事もあったし、ちょっと朝とか早くてハードだったけど良かったと思った。

戦後70年の広島を旅して

40代 女性

戦後70年の今、平和な日本が当たり前になって、日本人が戦争をしていたこと、広島と長崎に原爆が落とされたこと、それらを思い出すのは、8月に入ってから新聞やテレビでの報道から、という生活になってしまっていました。

旅行の初日、広島駅に降り立った瞬間、強い日差しを浴び、いろいろな形式の路面電車を目にし、ホテルを経由した私たちは、原爆ドームに向かいました。

普段も外国の方が多く訪れると聞いていましたが、今年は、お隣の山口県で開催されているボーイスカウトの世界大会「世界スカウトジャンボリー」に、世界約150の国と地域のスカウトたちが集結し、その方々が平和学習のために平和記念公園に来られていたそうで、資料館の中も外も、ボーイスカウトの方々であふれかえっていました。

翌日8/6の平和記念式典は、その空間にただで、70年という年月を超えて、戦争について考えさせられ、同時に今の平和な状況で生きていられることの有難さを感じることができました。暑い中でしたが、おしぼりやお水を配ってくれている人がいて、たくさんの人の手でできている式典なんだと感じました。

今回の旅行は、小6の子どもと一緒に参加させていただきました。子どもの心にどれだけのものが残ったかはわかりませんが、原爆ドームや資料館を見て、平和記念式典に参加して、慰霊碑に献花をした経験は、必ず心の中に残り、戦争や平和について考えるきっかけになったと思います。

私たち親子を含め参加者10人の旅行でしたが、親子で参加した人、中学生一人で参加した人、いろいろな方々がいて、一緒に過ごしたのは短い時間でしたが、

充実した楽しい時間を過ごすことができました。こういう素敵な出会いができたのも、この旅行に参加したおかげだと思います。ありがとうございました。

広島旅行に参加して

小学6年生 男児

僕は、広島に行ったのは3回目でした。原爆ドームや資料館を見たことはあったけど、式典に参加するのは初めてでした。式典の間はとても暑くて座っているのが大変だったけど、すごく大事な場所に参加しているんだと思いました。式典にはたくさんの人が来ていて、おじいさん・おばあさん、中学生の団体、いろいろな年齢の人が集まっていました。

資料館では写真を見たりして、戦争の悲惨さや恐ろしさを知りました。戦争について知っていることはたくさんないけれど、もう2度と戦争が起こらないようにしてほしいと思いました。資料館には、すごくたくさんの外国の人がいて驚きました。

広島はとっても暑かったけど、友達も一緒だったし、とても楽しかったです。

平和行事参加の旅を終えて

60代 女性

20年以上前、保谷市に住んでいたころ、保谷市の平和記念式典参加の旅で、長崎へ行ったことがありました。今回一緒に参加した娘はまだ小さくて「覚えていない…。」と言うので申し込んだのですが…。

式典の前日、朝早くに集合し、一路広島へ。新幹線の中の長い時間も、思いのほか速く過ぎました。

広電に乗り、ホテルへ行き、まずは荷物を預かっていただき、平和記念公園へ出かけました。思っていたより遠かったのですが、ほとんどアーケード街だったので、広島のお店をながめながら歩きました。被爆の建物や爆心地の案内板を見て、原爆ドームへ。爆心地とドームはほんとうに近いです。行ってみなければわからないことでした。

原爆ドーム前で写真を撮ってから、T字型をしているので原爆を落とす目標だったと言う相生橋を渡り、公園の中へ入りました。

報道関係の車輛があり、TVカメラ・マイクを持った人たちがあちこちにいました。

見学者が多い中、特にボーイスカウトの青年たちが目立ちました。どうしてだろうと不思議でしたが、国際的な大会が岩国であり、資料館へ見学に来ていると聞き、納得しました。資料館は、東館が改装中で本館しか入れないうえに、たくさんの方が入って…、とてもゆっくり観ることはできませんでした。けれど、いろんな国のボーイスカウトの若者たちと一緒に、いろんな国の言葉がとびかう中見学したのも思い出になります。でも、改装が終わってから、人の少ないときに

ゆっくり観たいと思いました。彼らにも、ゆっくり観てほしいです。

記念公園からホテルへの帰途、右翼のデモ隊に遭遇。デモ隊と警備の警察官と、どちらが多いのかと言うくらい、おまわりさんがいました。デモ隊のシュプレヒコールの中で、なるほどと思ったのは、「原爆を落としたアメリカは謝罪しろ!!」と言うものでした。

6日は、いよいよ記念式典に出席です。入場規制のため長いこと待たされて、会場の外で開式となってしまいました。広島市長の平和宣言のときには席に着けてよかったです。こども代表の平和への誓いは心にしみました。席には一輪ずつ花が用意されていて、式の後に献花しました。

会場に入れず、テントの周囲で陽のあたる所で、たくさんの人が立ったまま式典の様子を見ていました。こんなにたくさんの人たちが、非核・非武装を願っているのに、なくなるのは何故でしょう。

私が生まれたのは戦後9年目。まわりは、「もう戦争は嫌だ!!」と言う空気が満ちていました。私も、「みんな戦争なんて嫌!だと思っているのだから、2度と戦争は起きないだろう」と信じていました。けれど、気がつくとアメリカは何度も戦争をしていて、日本でも戦争をしたい人がいるらしい…。なんてことでしょう!

日本国憲法があるから戦争にはならないと思っていた私は平和ボケかもしれない。けれど憲法を守らないと戦争に巻き込まれるかもしれないのだとわかった今は、もっと、近・現代の歴史の真実を知り、きちんと伝えなければいけないと考えました。

平和行事参加の旅

20代 女性

日本という国について知らないことが多かった、今も全てを知っていないけれど、広島に行く前と後では、自分自身変わったと感じました。

喧嘩をしている子どもに、なんで喧嘩をしているのか聞くと“嫌なことを言われたから相手をぶった。そしたら相手もぶってきた。”どうゆう理由があろうが、先に手を出してしまった子が悪になってしまうけれど、やり返すのもおかしい話。子ども達は喧嘩をしても“どっちも悪い。”と理解し数分後には一緒に遊んでいる。子どもは互いに悪いことをした、だから互いに謝る。ということが出来るのに、見本にならなきゃいけない大人が武力でやり返そうとしているのかが、正直わかりません。

混雑していて資料館の展示物をまともに見ることができなくても、一所懸命メモをとる中学生、音声ガイドを聞きながら真剣に資料や遺品を見ている外国人。気にかけている人が大勢いるのに、なんで偉い人には伝わらないのか不思議に思いました。

偉い人の難しい言葉たちよりも、式典で発した小学校6年生の言葉の方が心に残りました。

もしも日本という国が変わってしまったら一番犠牲にあうであろう子どもたち、なんとも言えない気持ちになってしまいました。少子化だ!!と言っているけれど、戦争に行く子どもが増えるなら、少子化のままでいいとさえ思えてしまいます。

日本人は平和ボケしていると言う人がいますが、私はいいいじゃないか!!と思いたいのです。

平和を願った日本人がいたから、私は生きているのだと思っています。平和を願って、その想いに縋って何が悪いのでしょうか。

東京大空襲、沖縄戦、原子爆弾投下、民間人の犠牲がはるかに多い。国民を守る為に武力で戦う。それって守るといえるのでしょうか。結局、その武力も国民なのに。

なぜ、原爆ドームを残したのか。ちゃんと知ってほしい、言葉の重みを理解してほしいと思いました。

お金儲けには良いかもしれないけれど、戦争は悲しむ人が多い。笑顔が消え苦しむ人が増えるだけ、プラスのことよりマイナスのことばかり。なんで辛いことを繰り返すのか、理解できません。原爆投下では被疑者、真珠湾では加害者。戦争は多くの人を殺してしまう。私は今回の旅行で得たものは大きいと実感しています。